

中央区内景气动向调查

平成22年12月调查结果

平成23年1月19日

中央区

総 括

平成 22 年 12 月の動き

中央区内における 12 月の現状判断 D I は合計で 42.0 と、前回調査から 2.3 ポイント低下している。景気の先行き判断 D I は合計で 41.5 と前回調査から 2.8 ポイント低下している。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I (合計)

(D I)	平成22年			前回調査
合計	8月	10月	12月	からの変化
現状判断 D I	43.1	44.3	42.0	(-2.3)
先行き判断 D I	45.2	44.3	41.5	(-2.8)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した 50 人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1) の理由
- (3) (2) の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4) の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年 6 回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約 1 週間で、平成 22 年 12 月調査の調査票発送は 12 月 8 日（水）、回答期限は 12 月 16 日（木）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体 50 名に対し、有効回答客体は 47 名、有効回答率は 94.0%であった。

7 DI の算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する 5 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DI を算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で42.0と、前回調査から2.3ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連DIは8.0ポイント低下し、企業動向関連DIは3.0ポイント上昇している。構成比では、「やや良くなっている」と回答する人の割合が8.2ポイント減少し、「変わらない」、「やや悪くなっている」と回答する人の割合がそれぞれ5.3ポイント、4.8ポイント増加している。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

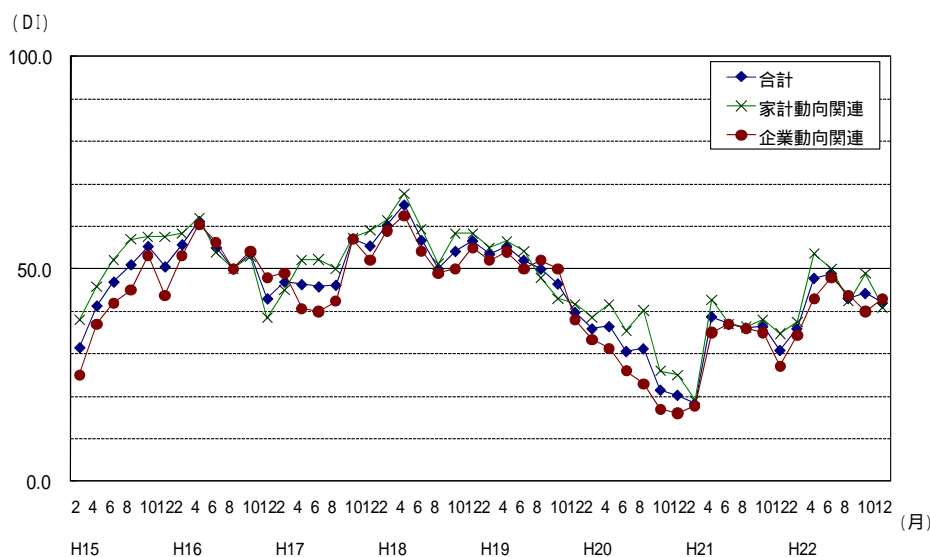
(DI)	平成22年			
	8月	10月	12月	(変化幅)
合計	43.1	44.3	42.0	(-2.3)
家計動向関連	42.4	48.9	40.9	(-8.0)
小売関連	43.2	47.7	42.5	(-5.2)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	42.9	50.0	39.3	(-10.7)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	43.8	40.0	43.0	(3.0)
製造業	39.3	32.1	53.6	(21.5)
非製造業	45.6	43.1	38.9	(-4.2)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く
		なっている	なっている		なっている	なっている
平成22年	8	0.0%	6.4%	68.1%	17.0%	8.5%
	10	2.1%	14.6%	50.0%	25.0%	8.3%
	12	2.1%	6.4%	55.3%	29.8%	6.4%
(変化幅)		(0.0)	(-8.2)	(5.3)	(4.8)	(-1.9)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断DIは合計で41.5と前回調査から2.8ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連DIは6.9ポイント低下し、企業動向関連DIは1.0ポイント上昇している。構成比では、「やや良くなる」と回答する人の割合が8.2ポイント減少し、「悪くなる」、「変わらない」と回答する人の割合がそれぞれ4.3ポイント、3.2ポイント増加している。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

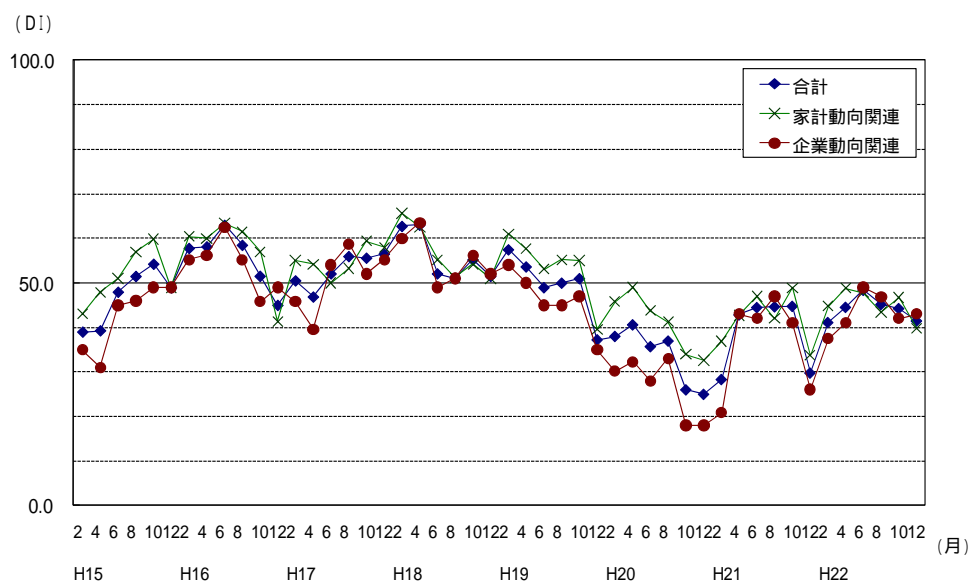
(DI)	平成22年			
	8月	10月	12月	(変化幅)
合計	45.2	44.3	41.5	(-2.8)
家計動向関連	43.5	46.7	39.8	(-6.9)
小売関連	43.2	43.2	37.5	(-5.7)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	35.7	50.0	42.9	(-7.1)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	46.9	42.0	43.0	(1.0)
製造業	42.9	35.7	53.6	(17.9)
非製造業	48.5	44.4	38.9	(-5.5)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成22年	8	2.1%	8.5%	66.0%	14.9%	8.5%
	10	0.0%	14.6%	54.2%	25.0%	6.3%
	12	2.1%	6.4%	57.4%	23.4%	10.6%
(変化幅)		(2.1)	(-8.2)	(3.2)	(-1.6)	(4.3)

図表2-3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

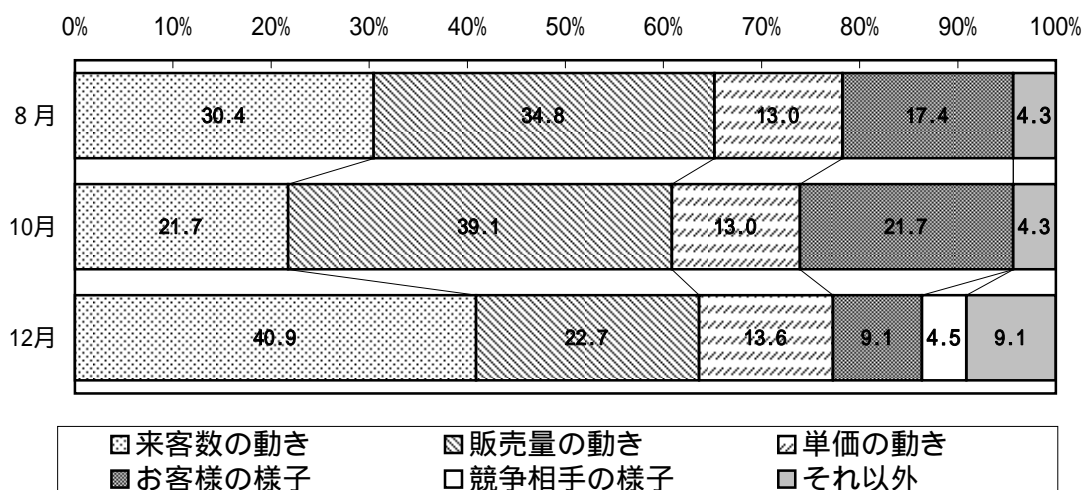
(D I)	平成22年		
	8月	10月	12月
合計	34.6	34.9	32.4
家計動向関連	34.8	44.6	34.1
小売関連	45.5	47.7	32.5
飲食関連	-	-	-
サービス関連	32.1	46.4	35.7
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	34.4	26.0	31.0
製造業	32.1	28.6	39.3
非製造業	35.3	25.0	27.8

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

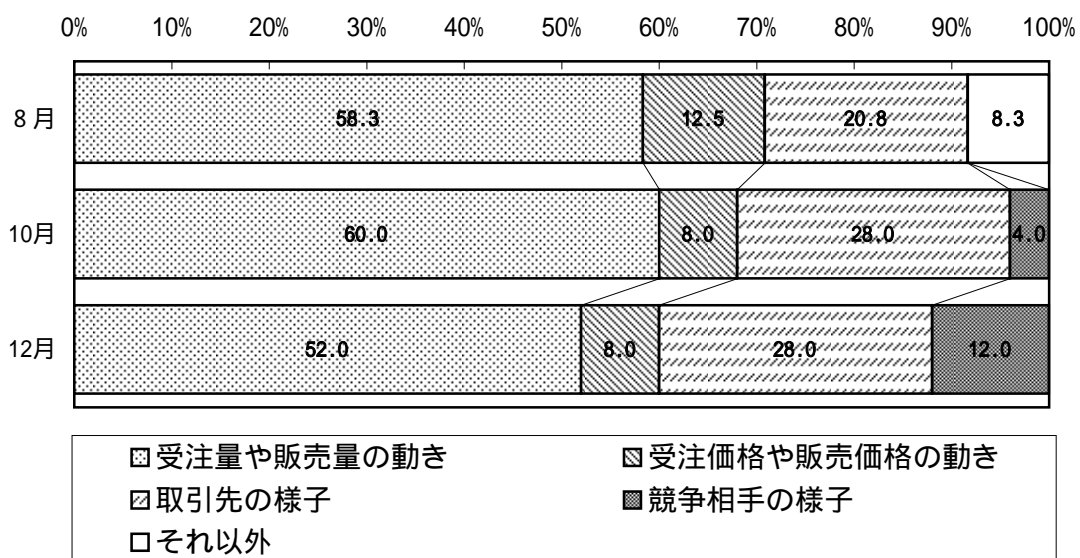
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方角性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	百貨店(売場主任)	来客数の動き	・9～10月にかけての百貨店の改装オープン、新規ファストファッションブランドストアのオープン等が一段落し、一時的に来街客が減っている。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・婦人服を始め、主力商品の売上は順調に推移しつつあるものの、全体では厳しい状態が続いている。
		百貨店(広報担当)	お客様の様子	・10、11月の店頭売上は2か月連続でプラスを維持しているものの、12月は気温が高めに推移していることもあり、若干伸び悩んでいる。来客数は近隣商業施設のオープン効果もあり、順調に推移している。
		衣料品専門店(店長)	来客数の動き	・冬物衣料品のバーゲン前の買い控え期で、来客数が減っている。
		衣料品専門店(店長)	それ以外	・改装効果で来客数、販売量共に伸びているが、客の様子、街の様子から見ても景気が良くなっているとは言えない。
		高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・年末の繁忙期で例年来客数は増加する。ただし年間を通して見込み済みの客数であり、1～2年前の年末と比較すると、客数、客単価共に下がっている。
		都市型ホテル(広報担当)	単価の動き	・客室稼働率は高いが、平均単価が前年を下回り、なかなか上昇しない。レストランについても平日夜の利用が少ない。
		旅行代理店(営業担当)	それ以外	・年間を通して12月が一番暇な時期なので厳しい。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・耐用年数が過ぎた電話機の更改が先送りされており、販売量が伸びない要因となっている。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・12月に入り年末商戦になっているが、主力商品である光回線や通信機器の販売量が伸び悩んでいる。
	やや悪くなっている	スーパー(店長)	競争相手の様子	・12月1日の競争店オープンにより、客数、売上が減っている。
		コンビニ(経営者)	単価の動き	・消費はますます冷え込み、客単価が低くなり、客も安くないと買わなくなっている。デフレがひどいようである。
一般レストラン(経営者)		来客数の動き	・忘年会等の大口予約が例年より少なく、他の客も減っている。	
都市型ホテル(経営者)		来客数の動き	・相変わらずの政局の混乱で、本来やるべき政策がほとんど進んでいない。景気を左右するのは政治の力が大きい。	
その他レジャー施設(経営者)		来客数の動き	・メディアが報道しているより、実際はボーナスも期待できなかったのか、暮れになり懐が締まっており、例年より客足が鈍っている。	
悪くなっている	-	-	-	
企業 動向 関連	良くなっている	卸売業[繊維・衣服等](営業担当)	受注量や販売量の動き	・例年に比べて良いというわけではないが、夏期は厳しい業界なので、自然と上がってきている。
	やや良くなっている	新聞業(経営者)	取引先の様子	・人の流れが良くなっているようで、ショッピングバッグを持っている人々を多数見かけるようになってきている。
		出版業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・景気を大きく左右するところまでは至っていないものの、ヒット商品が出て販売量が増えており、やや良くなってきた。
		卸売業[機械器具](営業担当)	受注量や販売量の動き	・9、10月の受注量は年末年始に比べると少ないので、現状のほうが良い。
	変わらない	出版業(経営者)	取引先の様子	・一部企業の年末賞与が持ち直したことから、土砂降りから大雨くらいになったかというところである。
印刷業・製本業(営業担当)		受注量や販売量の動き	・年末に向けて上がるはずの受注量、販売量が横ばいのままで推移している。期待の年賀状も悪い状況である。	

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
		印刷業・製本業 (営業担当)	競争相手の様子	・10～11月にかけて国内外でいろいろなことがあったせいか、物の流れが停滞しているようである。12月に入ってから多少動き始めている。
		輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・12月に入って受注量は多少上向きの傾向にあるが、個人のタクシー利用は天候に左右されるので、依然として伸び悩んでいる。法人受注はやや増えている。
		通信業(営業担当)	受注量や販売量の動き	・状況に大きな変化はなく、我慢の時期が続いている。
		金融業[証券] (営業担当)	取引先の様子	・システム開発や人材派遣、あるいはマンション等の不動産販売といった業種に関して、報道等では足下回復基調とのコメントとなっているものの、実際に検証してみると、依然として停滞が続いているようである。そういった業種の顧客層の動きを見ると、企業の場合、設備投資計画自体は消滅していないながら、依然として予算が付かずに凍結されたままである。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・新聞などでは年末のボーナスは上向きと報道されているが、中小企業、零細企業はほど遠いようである。街の人通りも少ない。
やや悪くなっている		印刷業・製本業 (経営者)	受注量や販売量の動き	・値下げ合戦が続いているので、受注しても利益が出ない。利益が出なければ、消費が減って景気も上向かない。
		その他サービス業[ビルメンテナンス] (営業担当)	取引先の様子	・得意先で、事業再編の実施で少しでも業績の回復を図るが、及ばずに会社更生手続きによる道を行くしかない企業が数件出てきている。
悪くなっている		金融業[証券] (営業担当)	取引先の様子	・株式市場の商い、金利共に低下しているので、個人や企業の資金が市場に入りづらくなっている。
		その他サービス業[管工事業] (経営者)	競争相手の様子	・利益を度外視し、売上さえ良ければいいという業者がいる。

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、○ : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	—	—
	変わらない	一般小売店〔靴〕 (店長)	・企業努力はするが、客数増、単価アップは見込めない。
		百貨店 (営業推進担当)	・客単価の低下傾向は依然続いており、購買意欲を今より改善できる要因が見当たらない。
		百貨店 (売場主任)	・リーマンショック以降の不景気はやり過ぎたものの、12月の繁忙期になって、引き続き財布のひもは固いと感じている。将来的にも価格に対する敏感な反応は変わらない。
		百貨店 (総務担当)	・景気回復に向け、確かな好転の兆しを感じられない。
		百貨店 (広報担当)	・賃金の伸び悩み、円高、株安はやや緩和されたものの、基調は変わらないなど、先行きに明るい材料がないため、変わらない。
		衣料品専門店 (店長)	・周辺の商業施設が新しくなる予定もなく、集客は期待できない。冬物衣料の在庫処分が引っ張って、プロパーの動きに影響を及ぼしそうである。
		高級レストラン (経営者)	・過当競争を強いられている地区なので、様々な形で業績向上を目指す手立てを展開するよう心掛けているが、その中で、身の回りの景気が良化するとは思えない。
		一般レストラン (経営者)	・この景気では良くならない。世間では減給、減俸のようである。
		都市型ホテル (広報担当)	・個人利用の増加に期待している。
		旅行代理店 (営業担当)	・年明けになるので動向は読みづらいが、3月決算の企業が多いと思うので、多少良くなるような気もしている。
		通信会社 (営業担当)	・根本的な景気の底上げがないため、変わらない。
		通信会社 (営業担当)	・現状維持である。
		その他レジャー施設 (経営者)	・年明けは毎年良い月なのだが、今年の客の様子から、どうも期待は持てそうもない。
	設計事務所 (所長)	・受注件数が一向に増えず、単価も低く、良くなると思えない。	
	やや悪くなる	一般小売店〔和菓子〕 (経営者)	・国会が機能していない状態や、景気対策をせず人々が生活を守るのに必死になっている現状では、心に余裕など出るはずもない。
		高級レストラン (スタッフ)	・賞与が減ったとの声が多く、年末年始は外食以外でお金を使うので悪くなる。
		一般レストラン (経営者)	・年末の買物に多くのお金を使用してぜいたくをした1月には、客の購買意欲が低下してしまうため、やや悪くなる。
		都市型ホテル (経営者)	・世界的に景気が悪く、一部の国を除いて先行き不透明な点がある。日本もこれから良くなる要素がほとんど見当たらない。
競馬場 (職員)		・販売量が下げ止まらないため、やや悪くなる。	
悪くなる	スーパー (店長)	・競争店のオープンにより先行きはもっと悪くなる。	
	コンビニ (経営者)	・必要な物以外は買わない、安い物しか買わないという客が多くなったため、売上は下がる一方である。	
企業 動向 関連	良くなる	卸売業〔機械器具〕 (営業担当)	・年度末の1～3月は一番受注が増える時期である。
	やや良くなる	印刷業・製本業 (営業担当)	・今後2～3か月後は年度末に差し掛かってくるので、よほどのことがない限り、動くのは必然である。
		卸売業〔機械器具〕 (従業員)	・今期は受注が順調に推移しており、やや上向きな見通しである。ただし、来期は同様とさえ、厳しい状況を予想している。
	変わらない	新聞業 (営業担当)	・広告出稿の伸びが回復傾向にあるが、まだ力強いものではない。
		出版業 (経営者)	・明るい材料はない。国内空洞化のさらなる進捗がある。
		出版業 (営業担当)	・例年、年明けから春先までは出版物の動きは鈍い。
		印刷業・製本業 (営業担当)	・年末がこの状況だと年度末もあまり期待できない。経済が止まっているようで動きを感じられない。何かしらの起爆剤が欲しい。
		輸送業 (従業員)	・タクシー業界は減車が進むまでは、現在の過当競争が続く。
	通信業 (営業担当)	・内外の政治情勢に明るさが見えず、為替の推移にも好転が見られない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		金融業〔証券〕（営業担当）	・中国情勢がそれでも悪化一辺倒になっていないこと、また、円高に一服感が出たことや金利動向等を見ると、やや明るめの見通しを出しても良い感はあるものの、消費や投資のマインドが一気に回復するほどに先々の安心感は持たれていないように感じる。	
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・年明けは需要のある時期だが、特に良い条件もあるわけではないので、変わらない。	
		卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）	・ここ数年、全く良くならないので、変わらない。	
		その他サービス業〔造園業〕（営業担当）	・見積依頼などの増加は見込めるが、受注価格の上昇は見込めないため、変わらない。	
	やや悪くなる		印刷業・製本業（経営者）	・政府の経済政策に具体性がないため、やや悪くなる。
			通信業（営業担当）	・政情不安定、無策、失望感がある。
			金融業〔証券〕（営業担当）	・所得が増えないだけでなく、政策面での後押しも無くなり、消費にお金が回らないため、混迷状態は今後も続く。
			卸売業〔繊維・衣服等〕（経営者）	・季節的に上向き時期ではない。年度替わりの3月に向けて変動要因が多く、予断を許さない。
			経営コンサルタント	・飲食店の数が減少傾向である。ビールサーバーなどは納める数より撤去の数が上回ってきている。年明けは更に加速する。
			その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・良くなる材料がない。閉そく感がまん延している。かじ取りする者がいない。
	悪くなる		建設業（経営者）	・公共投資の削減、単価減で、建設業は先行き真っ暗である。
			卸売業〔機械器具〕（経営者）	・例年、年末年始～2月は取引量が減少するため、悪くなる。
			その他サービス業〔管工事業〕（経営者）	・同業者間の競争が厳しい。

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)	
合計		50	
家計動向関連	小売関連	25	
	商店街・一般小売店	13	
	商店街代表者	2	
	一般小売店経営者・店員	0	
	百貨店	2	
	百貨店売場主任・担当者	5	
	スーパー	5	
	スーパー店長・店員	2	
	コンビニエンスストア	2	
	コンビニエリア担当・店長	2	
	衣料品専門店	2	
	衣料品専門店経営者・店員	2	
	家電量販店	0	
	家電量販店経営者・店員	0	
	乗用車・自動車備品販売店	0	
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0	
	その他小売店	0	
	住関連専門店経営者・店員	0	
	その他専門店経営者・店員	0	
	その他小売の動向を把握できる者	0	
	飲食関連	4	
	高級レストラン経営者・スタッフ	2	
	一般レストラン経営者・スタッフ	2	
	スナック経営者	0	
	その他飲食の動向を把握できる者	0	
	サービス関連	7	
	旅行・交通関連	3	
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0	
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2	
	旅行代理店経営者・従業員	1	
	タクシー運転手	0	
	通信会社	2	
	通信会社社員	2	
	レジャー施設関連	2	
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0	
	ゴルフ場経営者・従業員	0	
	パチンコ店経営者・従業員	0	
	競輪・競馬・競艇場職員	1	
	その他レジャー施設職員	1	
	その他サービス	0	
	美容室経営者・従業員	0	
	その他サービスの動向を把握できる者	0	
	住宅関連	1	
	設計事務所所長・職員	1	
	住宅販売会社経営者・従業員	0	
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0	
	その他家計の動向を把握できる者	0	
	企業動向関連	農林水産業従業者	25
		鉱業経営者・従業員	0
		製造業経営者・従業員	0
食料品製造業		7	
繊維工業		0	
家具及び木材木製品製造業		0	
パルプ・紙・紙加工品製造業		0	
出版・印刷・同関連産業		7	
新聞業		2	
出版業		2	
印刷業・製本業		3	
その他出版・印刷・同関連産業		0	
化学工業		0	
石油製品・石炭製品製造業		0	
プラスチック製品製造業		0	
窯業・土石製品製造業		0	
鉄鋼業		0	
非鉄金属製造業		0	
金属製品製造業		0	
一般機械器具製造業		0	
電気機械器具製造業(精密機械を含む)		0	
輸送用機械器具製造業		0	
その他製造業		0	
非製造業経営者・従業員		18	
建設業		2	
輸送業		1	
通信業		2	
金融業		2	
不動産業		0	
卸売業		7	
繊維・衣服等		2	
食料品		1	
建築材料、鉱物・金属材料等		0	
機械器具		3	
その他卸売業		0	
サービス業		4	
広告代理店・新聞販売店[広告]		0	
司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等		1	
コピーサービス業		0	
その他サービス業		4	
その他非製造業		0	
その他企業の動向を把握できる者		0	